

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	149260175	事業の開始年月日	令和2年9月1日
		指定年月日	令和2年8月28日
法人名	一般社団法人 東林間 輝		
事業所名	グループホーム 東林間 輝		
所在地	(〒252-0311) 神奈川県相模原市南区東林間5-6-21		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年9月3日	評価結果 市町村受理日	令和4年12月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- 理念①あなたの笑顔が見たいから
 ②真心と安心のある介護をめざして
 ③地域に根ざす家族愛
1. 理念に沿ったサービスを提供するようにしている
 2. 入居者様・ご家族の意向に寄り添いできる限り最期まで輝で過ごしていただけるような関わりを心がけている
 3. 入居前の習慣を失わずその人らしさが活かされる生活を目指している
 4. 持っている力を最大限に引き出す関わり方をしている
 5. 介護と医療の連携ができています
 6. ご家族がいつでも面会できる雰囲気作りをしている
 7. 旬の食材を使った献立、手作りで家庭の味を提供している
 8. 職員が元気で明るく働ける環境づくり

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年10月5日	評価機関 評価決定日	令和4年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「東林間」駅から徒歩3分の落ち着いた住宅街に所在し、3階建ての1階は小規模多機能施設で、2階と3階の各ユニットに9人ずつが生活しています。旧法人から独立して2年が経ち、開設以来地域との良好な関係が築かれています。事業所内は家庭的な雰囲気、利用者にとっても地域に根ざした住環境となっています。

<優れている点>

事業所開設時に全職員の参加で策定した理念を各ユニットに大書して掲示しています。職員は支援で迷いが生じたときに、理念に立ち返り自らの行動指針として支援の振り返りをしています。管理者・職員共に利用者支援の実践の中から、支援の方法や内容を絶えずチェックしています。チェック内容は毎日の申し送りやショートカンファレンスなどで情報として共有し、支援の方法を見直すなど支援の向上に向けて取り組んでいます。家族には毎月利用者の状況を写真を添え、文書で伝えています。利用者本人からの希望や要望の確認が困難な場合は、家族からの情報を得ています。通院を含め、事業所で療養している利用者の見守りなども、家族の協力を得ながら共に利用者を支えています。

<工夫点>

医療依存度の高い利用者にも対応可能な医療的ケアを提供しています。又看取りを行い、24時間対応の訪問看護師や主治医の協力が大きな力になっています。連絡を密にし家族も含めチームとして利用者を最期まで見守っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	輝の理念である、「1. あなたの笑顔が見たいから」「2. 真心と安心のある介護をめざして」「3. 地域に根ざす家族愛」を各ユニットに掲示し職員がいつでも理念に基づき自分の行動に照らし合わせながら従事している。	理念は施設開設時に全職員で作り上げたもので、各ユニットの食堂に大きく掲示しています。職員は業務で迷いが生じたときにそれを確認し、理念に添った行動をしているか原点に戻って自らの行動指針としています。利用者も掲示の理念を唱和しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店振興会に加入している。コロナ禍になる前は「サロン輝」を開催し地域の方々に参加いただいている。商店街のゴミ広いにも参加していたが残念ながら今はできていない。	運営推進会議のメンバーとして自治会や地域包括支援センターなどの代表が参加しています。理美容室の利用や地元の祭りへの参加、敬老会招待などを通じ、利用者と地域住民との交流を積極的に図ってきました。コロナ感染の収束後再開予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍になる前は毎年地域包括主催のグループホーム見学を兼ねて認知症の方に対する支援などをご説明していた		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため運営推進会議は行っていない。そのため、施設内の報告を会員には手紙で行っている	コロナ禍で対面の会議は実施しておらず2ヶ月に1回、利用者の状況や行事、様々な取り組みの様子を文書で報告しています。コロナ禍前は、運営推進会議メンバーの要望で、認知症施設見学ツアーへの協力や家族向け認知症研修などを実施していました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険課、高齢者支援課及び生活支援課等の行政窓口との連絡を密にしている。	介護制度に係る通知などは相模原市や神奈川県から直接受けています。日常的には地域包括支援センターを通じて行政との関わりを持っていますが、運営や認定に関する指導等は直接受けています。又、生活保護受給者枠を設けており担当課と家族調整などで協力・連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会年4回、一般研修を年2回定期的に行って理解を深めている。スピーチロックを含め身体拘束をしないケアに努めている。長時間の点滴が必要な方が動き回り針を抜かないように見守り、付き添いをご家族にご協力いただいたときもあった。	身体拘束の防止については事業所として特に力を入れています。身体拘束委員会と身体拘束一般研修を年間計6回実施しています。研修に参加できなかった職員は記録を必ず閲覧し、全職員への周知徹底を図っています。利用者が不穏な時も拘束をしないための様々な工夫をしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修実施し虐待防止を学び現場での事例をあげ話し合っている。報・連・相を大切に絶対虐待を疑われるようなことがないようにしている。もしそのようなことがある時は社内以外にも市役所にも窓口があることを伝えている。10月には虐待防止委員会を開催することになっている	虐待防止については、身体拘束に関する研修の中で触れ、職員に徹底を図っています。8月に職員に対して自己点検シートを活用し、各自で振り返りを行いました。職員のストレスを軽減し職員間で互いに気づいたことを話し合える環境を作る努力をしています。	自己点検シート（チェックリスト）による振り返りを定期的実施することで、職員の意識向上を図ることが期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用したいご家族の依頼があったので主治医を含め関係者と話し合った。申請書を提出するにあたり必要な書類に記入するなど支援した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族に対して納得していただけるよう十分な説明を行い契約している。改定時には家族会で説明をし欠席者には文書で知らせていた。コロナ禍になってからは文書を送付し同意書をいただいている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族あての手紙・メール・電話でのやり取りをして意見交換の場を設けている。コロナ禍になる前は家族会を年に1回開催していた。意見を反映できるようにしている	年に一度敬老会と併せて家族会を開催していましたが、コロナ禍で中断しています。月に一度家族宛てに介護報告書を郵送し、意見や要望の申し出先を案内しています。家族から特段の要望や意見は今のところありません。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議・フロア会議・個人面談などにおいて職員の意見・提案を聞いている	運営に関しては、管理者等が年に数回職員との個人面談を実施し、日常的にも必要の都度、話を聞いています。管理者として話しやすい雰囲気を作るための努力をしています。リーダー会議やフロア会議などでも話を聞く機会として活用しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回個人面談を実施。状況にあわせ随時面談を行い環境整備に取り組んでいる。勤務状況の把握は1日1回は現場に入り確認している。また希望休・有給休暇に関しては全職員が取得できる環境となるように心がけている	管理者は年1回の他、随時の個人面談で職員の要望等を聞き、介護業務の場面での観察等と併せて就業状況を把握しています。介護業務における成功体験の確認や労い、時間外労働の基準の明確化、休暇取得の奨励などにより職員の健康の維持について配慮しています。	
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修も受講できるようにし、オンラインなどで積極的に参加し人材育成に努めている。また、初任者研修など資格習得できるようにしている	常勤、非常勤職員ともに内外の研修に積極的に参加しています。参加した職員は、記録やフロア会議などで全職員に内容を報告をしています。新任職員にはOJTで3ヶ月間の研修・評価・見極めを仕組とし育成しています。資格取得研修の参加も奨励しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在開催していないが、グループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めている。またグループホーム連絡会では見学会も実施している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問した際、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。経過とともに改善すべきところは改善し希望に沿ったサービスに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談の際にご家族の意向を確認し要望に沿った会合に努めている。またできることできないこともお伝えし誤解が生じないように説明している。そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で収集した情報を活かし介護サービスに反映させるだけではなくインフォーマルサービス等の確認も行っている。経過とともに改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の過ごしてきた環境をできる限り維持できるサービスに努めている。ご協力いただける部分はお協力いただくようお願いし、男性・女性に関係なく持っている力を発揮いただくようにかかわっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会にいらしたときに日常生活を見ていただきながら楽しいエピソードなどをお伝えしている。またご家族との会話に介入するなどしご家族が安心して帰られるようにしている。病院の受診などは可能な範囲でご協力いただくように相談している		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ対策をしっかりと行い馴染みの関係が立たないように協力している。ご友人来訪時には並んで記念写真を撮ったり、外食の支援をしている。生活歴や会話などを参考に大切な場所にはお連れしたい（お墓参り等）がなかなか実現できない	コロナ禍で、面会や外出の制限がありますが、家族の事情に合わせて屋上での面会や玄関のガラス戸越しの面会を受け入れています。外出は本人の喜びを尊重して、現在は墓参りと自宅のみという約束で実施し、必ず事前に主治医の意見や助言を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要介護1から要介護5の入居者様が各々孤立しないように席の工夫などを行っている。また馬鹿にしたりされたりしないよう職員が介入して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もご家族様から相談・報告のご連絡ある。その後の特養・入院先にご様子を見に行っていたが今はコロナのため行けずに機会がある時にご様子をうかがっている。また葬儀にも参列させていただいている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている。職員・ご家族との情報を共有をし職員本位のものとならないように気をつけている	言葉で的確に思いや要望を伝えられる人が少ないため、利用者のジェスチャーや表情から職員は意向等を汲み取っています。職員の理解が及ばない場合は、家族と相談をし情報を得る他、職員が試行錯誤を重ねながら意図を汲む努力をし、意向に添った支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各入居者様の暮らしの希望、意向を把握し、職員は情報の共有をして生活リズムが変わらないように努力している。仏壇のお水替え等も一緒に行っている		
25		○暮らしの現状把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタル（血圧・体温・SP0 ₂ ）をとっている。一日の過ごし方など、朝夕申し送りをして現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員の思い込みとならないようにフロー会議・ショートカンファで話し合っている。ご家族・医療関係者の意見も反映させ介護計画を作成し同意・署名・捺印いただいている。そしてその方の状況に併せてモニタリングを行いケアのあり方を検討している	ケアプランは個別に長期目標、短期目標を設定しています。現状に即したプランとなるよう援助内容、サービス内容を具体的に記載しています。毎月のフロア会議のほか、適宜行うショートカンファレンスでケアのあり方を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがあるときにアンダーラインを引いている。入居者さまの状態によって記録紙を一時的に変えて「見える化」にして情報共有してケアの見直しを実践している。家族にはその旨をお伝えしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	7月にお看取りをした。全盲の奥様が側で手を握ってほしいとの意向もあり自宅までの送り迎えをしたりして一緒に過ごす時間を作って差し上げた。コロナ禍であり衛生面なども注意して対応した		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナが落ちついた6月頃に地域のイベントに参加した。事前にコロナ対策をしているかなども確認し、また参加するにあたってこちらでもコロナ対策を行い安全に楽しめるようにした		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医往診時には毎日のバイタル・食事飲水量・トイレ回数等記入してある表を見ていただき普段の生活・身体面等様々なことを報告している。状況・状態によっては医療機関へ早期につなげるなし、ご家族様からは安心していただいている。主治医は夜間早朝にかかわらず迅速に対応くださっている。今回もご家族の意向もあるホームで点滴をして回復している	入居以前から、事業所の協力医をかかりつけ医とする利用者が多く、定期的な訪問診療以外の急な往診依頼にも迅速な対応を受けています。訪問看護師との連携も十分な体制をつくっているため、医療依存度の高い利用者もホームで可能な限り適切な医療を受けることができます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24H対応の訪問看護とクリニックを利用している。訪問看護師には関わりの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談している。医療と介護の連携が取れる様に医療連絡ノートを記入し情報の共有をしている。看護と介護が連携してご家族に安心していただきお看取りもできた		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折や原因不明熱で入院が必要となった時は日常の様子がわかる職員がご家族と一緒に付き添いをしていいる。お見舞いに行き病院関係者から情報を収集し輝の主治医にも報告している。出来るだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺うようにしている。7月にお看取りをしたその時も状態の変化がある度に家族の意向に変化がないか伺い、輝・ご家族・医療職のチームで情報を共有して支援した	入居時に「看取りの指針」に基づいて家族に説明しています。本人の状態変化により、本人・家族が望む支援の方向性について話し合いを重ねています。今年度も、家族の思いに寄り添いながら、看取りケアを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならないことや救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざという時に対応できるように確認している。連絡先などはわかりやすいように電話のある壁に貼ってある		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年春・秋の2回訓練をしている。職員もそれぞれが対応できるようにしている	消防署の協力を得た避難訓練を年2回行っていますが、夜間を想定した訓練は今後の課題としています。備蓄に関しては管理台帳を作成し、保管・管理をしています。災害時には事業所の井戸水を地域でも使用してもらうことを運営推進会議で伝えています。	職員が各フロア1名体制になる夜間を想定した訓練の実施が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを利用して常に研修している。認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるよう努力している。身だしなみも気をつけ、お化粧品なども継続して支援している。お手洗いの声掛けも大きさ、タイミングを配慮している	「世代間のコミュニケーションのギャップが埋まる・みんなが笑顔で働けるコミュニケーションの秘訣」「好ましくないコミュニケーション」といった研修を職員は受講し、利用者理解や接遇に活かせるよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしている。飲み物も温かい・冷たいものがいいか伺うようにしている。重度化になってもその方の思いを大切にすため、言葉はしっかりと受け止めて記録に残し共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先しないように入居者本位で対応するように心がけている。共同生活の場でもあるので他の方とのバランスも見ながら調整し対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている。また近くの美容院にもお連れしカットを楽しんでいただいている。季節にあったその人らしい着こなしになるよう、お化粧品をしていた方にはアイブロウ・口紅を、ウィッグをつけていて方にはウィッグをつける支援をしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片付けは入居者様とおしゃべりをしながら一緒に行っている。季節感のある献立を提供している。残すことの多い献立は見直している。生ものが嫌いな方には炙りやシラスなどに変更している	食事は1階の小規模多機能事業所で一括で作り、盛り付け、配膳などは利用者も関わっています。行事の際には、好みに合わせて提供しています。屋上での豚汁とおにぎりパーティ、柏餅やおはぎを利用者と手作りするなど、食に関する「楽しみごと」を大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用してる。体重の増減・体調の変化にあわせて量や食事の内容も変えて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアのお声掛けをし、一人では難しい方は介助し実施している。また訪問歯科の利用もあり、誤嚥性肺炎にならないよう十分に気をつけている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	できる限りトイレでの排泄をしていただけるよう声掛け誘導している。排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めている。夜間も安眠妨害にならない程度にお声掛けしている	トイレでの排泄を基本としています。職員の観察のほか、排泄チェック表で、一人ひとりの排泄間隔やタイミングを把握し、声掛けや誘導をしています。その際はプライバシーに配慮し、「トイレ」の言葉は使わないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルトなどの提供、毎日のラジオ体操や廊下歩行運動など一緒に行ったり、時には腹部マッサージなどをし予防に努めている。また申し送りをし、排便のコントロール（頓用薬）もしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めておらず入居者様の状態や気分に合わせて対応している。また同性介助を基本とし、遅番・夜勤対応で夜間に入浴していただいているときもある	基本週2回の入浴を支援しています。事業所敷地内の井戸水を使用しているので、湯はかけ流しとなっています。個々の介護度によってはリフトのある1階の小規模多機能の浴室で入浴することもできます。夜間帯希望の入浴も可能となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている。就寝時間も個別で対応している。座っている時間が長くないよう適宜短時間の休息をとっていただいている。眠れない方にはホットミルクなど提供し安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬の無いようにダブルチェックをしている。大体だがどなたが何を服用しているか把握するようにしている。薬に変更がある時には状態の変化にも気をつけ、家族・医療職にもつなげ情報の共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦をしていた方には家事作業をできるだけ一緒に行うようにしている。また歌や昔の職業や生まれ育った場所などに関連した話などして笑顔みられてりしている。また屋上での家庭菜園への水やりなど気分転換していただくようにしていた		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出支援ができていない	気分転換で散歩や屋上に出て外気浴をしています。コロナ禍ですが、状況を見ながら麻溝公園に咲く菖蒲や菊鑑賞などドライブを兼ねて出かけています。家族との個別外出（自宅・墓参りを除く）はコロナ収束後に再開予定としています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している。以前は職員と一緒に買い物に行き使うことを支援していた。お金を持っていないと不安な方にはご家族から承諾いただき所持していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙を書いていたがとすることができずにいる。入電時にはおつなぎし、スタッフが会話できるよう仲介している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	母の日にはカーネーション、夏野菜の栽培など季節感を取り入れる工夫をしている。気分転換に屋上にお連れしている。トイレは一日3回の清掃、共有の空間は毎日清掃している。コロナ感染マニュアルを作成し、1F小多機を隔離室として移動など実際にシミュレーションを行った	清掃・消毒・換気に気を付けています。コロナ感染者が出た場合を想定し、1階小規模多機能事業所の1室を隔離室として確保しています。リビングで利用者は一人静かに新聞を読んだり、気の合った人同士で話をしたり、職員と関わったりと思いいに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、気の合う方が近くにいる食席など配慮している。お疲れにもなれ独りになる時間も必要と思われるので居室で過ごしていただいたりしている。居室以外で見守りができるホッとできる場所を作れると良いと思っている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みのものをお持ちいただいている中には仏壇をお持ちいただいたり、昔描いた絵画などの作品、ご家族の写真など飾っている方もいる	事業所の備え付け設備以外は、家族の位牌・遺影、趣味の手作り作品、愛用の楽器、本など、本人が大切にしているものを居室に持ち込んでいます。室内の整理整頓、衣類の入れ替え、不足品の確認など居室担当職員が中心に支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できること・わかることを職員が一人一人理解し、過剰な介護にならないようにしている。また手すりの設置、トイレは自分で行けるように大きく表示したりしている。亡くなったご主人の水の交換は毎日スタッフが一緒に支援している		

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	輝の理念である、「1. あなたの笑顔が見たいから」「2. 真心と安心のある介護をめざして」「3. 地域に根ざす家族愛」を各ユニットに掲示し職員がいつでも理念に基づき自分の行動に照らし合わせながら従事している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店振興会に加入している。コロナ禍になる前は「サロン輝」を開催し地域の方々に参加いただいている。商店街のゴミ広いにも参加していたが残念ながら今はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍になる前は毎年地域包括主催のグループホーム見学を兼ねて認知症の方に対する支援などをご説明していた		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため運営推進会議は行っていない。そのため、施設内の報告を会員には手紙で行っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険課、高齢者支援課及び生活支援課等の行政窓口との連絡を密にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会年4回、一般研修を年2回定期的に行って理解を深めている。スピーチロックを含め身体拘束をしないケアに努めている。長時間の点滴が必要な方が動き回り針を抜かないように見守り、付き添いをご家族にご協力いただいたときもあった。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修実施し虐待防止を学び現場での事例をあげ話し合っている。報・連・相を大切に絶対虐待を疑われるようなことがないようにしている。もしそのようなことがある時は社内以外にも市役所にも窓口があることを伝えている。10月には虐待防止委員会を開催することになっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用したいご家族の依頼があったので主治医を含め関係者と話し合った。申請書を提出するにあたり必要な書類に記入するなど支援した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族に対して納得していただけるよう十分な説明を行い契約している。改定時には家族会で説明をし欠席者には文書で知らせていた。コロナ禍になってからは文書を送付し同意書をいただいている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族あての手紙・メール・電話でのやり取りをして意見交換の場を設けている。コロナ禍になる前は家族会を年に1回開催していた。意見を反映できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議・フロア会議・個人面談などにおいて職員の意見・提案を聞いている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回個人面談を実施。状況にあわせ随時面談を行い環境整備に取り組んでいる。勤務状況の把握は1日1回は現場に入り確認している。また希望休・有給休暇に関しては全職員が取得できる環境となるように心がけている		
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修も受講できるようにし、オンラインなどで積極的に参加し人材育成に努めている。また、初任者研修など資格習得できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在開催していないが、グループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めている。またグループホーム連絡会では見学会も実施している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問した際、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている。経過とともに改善すべきところは改善し希望に沿ったサービスに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談の際にご家族の意向を確認し要望に沿った会合に努めている。またできることできないこともお伝えし誤解が生じないように説明している。そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で収集した情報を活かし介護サービスに反映させるだけではなくインフォーマルサービス等の確認も行っている。経過とともに改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の過ごしてきた環境をできる限り維持できるサービスに努めている。ご協力いただける部分はお協力いただくようお願いし、男性・女性に関係なく持っている力を発揮いただくようにかかわっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会にいらしたときに日常生活を見ていただきながら楽しいエピソードなどをお伝えしている。またご家族との会話に介入するなどしご家族が安心して帰られるようにしている。病院の受診などは可能な範囲でご協力いただくように相談している		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ対策をしっかりと行い馴染みの関係が立たないように協力している。ご友人来訪時には並んで記念写真を撮ったり、外食の支援をしている。生活歴や会話などを参考に大切な場所にはお連れしたい（お墓参り等）がなかなか実現できない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要介護1から要介護5の入居者様が各々孤立しないように席の工夫などを行っている。また馬鹿にしたりされたりしないよう職員が介入して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もご家族様から相談・報告のご連絡ある。その後の特養・入院先にご様子を見に行っていたが今はコロナのため行けずに機会がある時にご様子をうかがっている。また葬儀にも参列させていただいている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている。職員・ご家族との情報を共有をし職員本位のものとならないように気をつけている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各入居者様の暮らしの希望、意向を把握し、職員は情報の共有をして生活リズムが変わらないように努力している。仏壇のお水替え等も一緒に行っている		
25		○暮らしの現状把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタル（血圧・体温・SP0 ₂ ）をとっている。一日の過ごし方など、朝夕申し送りをして現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員の思い込みとならないようにフロー会議・ショートカンファで話し合っている。ご家族・医療関係者の意見も反映させ介護計画を作成し同意・署名・捺印いただいている。そしてその方の状況に併せてモニタリングを行いケアのあり方を検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがあるときにアンダーラインを引いている。入居者さまの状態によって記録紙を一時的に変えて「見える化」にして情報共有してケアの見直しを実践している。家族にはその旨をお伝えしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	7月にお看取りをした。全盲の奥様が側で手を握ってほしいとの意向もあり自宅までの送り迎えをしたりして一緒に過ごす時間を作って差し上げた。コロナ禍であり衛生面なども注意して対応した		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナが落ちついた6月頃に地域のイベントに参加した。事前にコロナ対策をしているかなども確認し、また参加するにあたってこちらでもコロナ対策を行い安全に楽しめるようにした		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医往診時には毎日のバイタル・食事飲水量・トイレ回数等記入してある表を見ていただき普段の生活・身体面等様々なことを報告している。状況・状態によっては医療機関へ早期につなげるなし、ご家族様からは安心していただいているとお話いただいている。主治医は夜間早朝にかかわらず迅速に対応くださっている。今回もご家族の意向もあるホームで点滴をして回復している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24H対応の訪問看護とクリニックを利用している。訪問看護師には関わりの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談している。医療と介護の連携が取れる様に医療連絡ノートを記入し情報の共有をしている。看護と介護が連携してご家族に安心していただきお看取りもできた		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折や原因不明熱で入院が必要となった時は日常の様子わかる職員がご家族と一緒に付き添いをしている。お見舞いに行き病院関係者から情報を収集し輝の主治医にも報告している。出来るだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺うようにしている。7月にお看取りをしたその時も状態の変化がある度に家族の意向に変化がないか伺い、輝・ご家族・医療職のチームで情報を共有して支援した		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒事故や急変時に行わなければならないことや救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざという時に対応できるように確認している。連絡先などはわかりやすいように電話のある壁に貼ってある		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年春・秋の2回訓練をしている。職員もそれぞれが対応できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを利用して常に研修している。認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるよう努力している。身だしなみも気をつけ、お化粧品なども継続して支援している。お手洗いの声掛けも大きさ、タイミングを配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしている。飲み物も温かい・冷たいものがあるか伺うようにしている。重度化になってもその方の思いを大切にすため、言葉はしっかりと受け止めて記録に残し共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先しないように入居者本位で対応するように心がけている。共同生活の場でもあるので他の方とのバランスも見ながら調整し対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている。また近くの美容院にもお連れしカットを楽しんでいただいている。季節にあったその人らしい着こなしになるよう、お化粧品をしていた方にはアイブロウ・口紅を、ウィッグをつけている方にはウィッグをつける支援をしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片付けは入居者様とおしゃべりをしながら一緒に行っている。季節感のある献立を提供している。残すことの多い献立は見直している。生ものが嫌いな方には炙りやシラスなどに変更している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用してる。体重の増減・体調の変化にあわせて量や食事の内容も変えて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず口腔ケアのお声掛けをし、一人では難しい方は介助し実施している。また訪問歯科の利用もあり、誤嚥性肺炎にならないよう十分に気をつけている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	できる限りトイレでの排泄をしていただけるよう声掛け誘導している。排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めている。夜間も安眠妨害にならない程度にお声掛けしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルトなどの提供、毎日のラジオ体操や廊下歩行運動など一緒に行ったり、時には腹部マッサージなどをし予防に努めている。また申し送りをし、排便のコントロール（頓用薬）もしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めておらず入居者様の状態や気分に合わせて対応している。また同性介助を基本とし、遅番・夜勤対応で夜間に入浴していただいているときもある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている。就寝時間も個別で対応している。座っている時間が長くないよう適宜短時間の休息をとっていただいている。眠れない方にはホットミルクなど提供し安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬の無いようにダブルチェックをしている。大体だがどなたが何を服用しているか把握するようにしている。薬に変更がある時には状態の変化にも気をつけ、家族・医療職にもつなげ情報の共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦をしていた方には家事作業をできるだけ一緒に行うようにしている。また歌や昔の職業や生まれ育った場所などに関連した話などして笑顔みられてりしている。また屋上での家庭菜園への水やりなど気分転換していただくようにしていた		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出支援ができていない		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している。以前は職員と一緒に買い物に行き使うことを支援していた。お金を持っていないと不安な方にはご家族から承諾いただき所持していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙を書いていたがとすることができずにいる。入電時にはおつなぎし、スタッフが会話できるよう仲介している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	母の日にはカーネーション、夏野菜の栽培など季節感を取り入れる工夫をしている。気分転換に屋上にお連れしている。トイレは一日3回の清掃、共有の空間は毎日清掃している。コロナ感染マニュアルを作成し、1F小多機を隔離室として移動など実際にシミュレーションを行った		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、気の合う方が近くにいる食席など配慮している。お疲れにもなれ独りになる時間も必要と思われるので居室で過ごしていただいたりしている。居室以外で見守りができるホッとできる場所を作れると良いと思っている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みのものをお持ちいただいている中には仏壇をお持ちいただいたり、昔描いた絵画などの作品、ご家族の写真など飾っている方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できること・わかることを職員が一人一人理解し、過剰な介護にならないようにしている。また手すりの設置、トイレは自分で行けるように大きく表示したりしている。亡くなったご主人の水の交換は毎日スタッフが一緒に支援している		

2022年度

事業所名 グループホーム東林間輝
 作成日： 2022 年 12 月 6 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	春。夏と年2回は必ず避、災害訓練をしているが、夜間を想定した訓練ができていない。マニュアルでの説明のみになっている。	年2回のうち1回はフロー1名体制の夜間を想定した訓練をおこなう。	取り急ぎ、2023年1月に夜間を想定した訓練をおこなう。	1.5ヶ月
2	6	身体拘束研修時に虐待についての研修も併せておこなっている。	虐待防止委員会の設立をする。そして、深く話し合い防止に努める。記録も残す。	2023年4月に虐待防止委員会を設立する。それまでも、虐待についての話し合いは行っていく。	3.5ヶ月
3	49	コロナ渦のため外出の支援が出来ていない、	要望があったときはマスクをして、屋上のみではなく人ごみのない近隣を数分でもいいので気分転換をしていただく。	散歩に行っても良いか、主治医やご家族様にも確認しておく。コロナの発生状況や、インフルエンザの流行を見ながら、無理のないように数分程度対応する。	6.5ヶ月
4		以下余白			ヶ月
5					ヶ月